

## 毎日の「確認テスト」で完全定着を図る

**吉良** メデュカパスで印象に残っていることを聞かせてください。

**大原** 「分かったつもり」と「実際に解ける」との間には、かなり大きなギャップがあります。ですから、受験勉強では、「やりっ放し」にせず、授業で学んだことを確実に消化することが大切です。けれども、単に自分で復習するだけでは、どの程度定着したのか分からず、不安なものです。メデュカパスは、学んだことをしっかりと定着させるシステムを導入しており、その不安を払拭することができました。毎日、「確認テスト」

があり、間違えた問題はもう一度自分で考えて、それでも分からない場合はすぐに先生に質問し、ときには先生に出してもらった類似問題を解きます。そうやって、同様の問題なら完璧に解けるレベルまで仕上げていくわけです。学んだ内容が確実に定着していく手応えが得られました。

**吉良** 「確認テスト」は、月曜日から金曜日まで、授業終了後の50分間（1日1教科）実施しています。前週の授業で学んだ内容を出題し、本当に理解できているかをチェックするテストです。さらに、記憶が薄れかけた翌週土曜日の午前中に、「確認テスト」で間違えた問題をやり直す時間も設けています。

## 面接や入学後にも役立つ「Input-Output方式」

**大原** 「Input-Output方式」の授業も楽しみにしていました。私は模試などで間違えた問題や、自分が苦手な単元の問題を取り上げていました。

**吉良** 3〜4名の生徒の前で解法を発表する授業ですから、得意な単元を取り上げる生徒が多いわけですが、あえて苦手な単元を選んだ理由は何ですか。

**大原** 苦手な単元の勉強は避けようとしがちです。「Input-Output方式」の授業で発表すれば、否応なく勉強することになると考えたのです。私の説明が曖昧になると、他の得意な生徒からフォローしてもらいうこともあり、考え方の幅が広がりました。

**吉良** 他の生徒に教えることで、脳の別の部分が活性化し、理解が進む効果があります。また、2次試験の面接やグループ討論にも役立ちます。話すのが苦手だった生徒が、年間50回近く、他の生徒の前で発表する経験を通して、的確に受け答えできるようになったという声が聞かれます。

**大原** 私も、人前で話すのが極端に苦手なタイプでした。昭和大学医学部の面接は、目の前に3〜4名の面接官が並び、相当な圧迫感がありま

す。現役のときは、まったく話すことができず、落ち込みました。1浪後は「Input-Output方式」の授業のおかげで、自分の考えがきちんと言えるようになり、とても大きな効果だと感じています。さらに、入学後も役立っています。医学部ではアクティブ・ラーニングの授業が豊富だからです。たとえば昭和大学では、将来のチーム医療に向けて、歯学部、看護学部との合同PBLが行われます。初対面の学生といきなりディスカッションするのですが、そんなときも臆せず自分の意見が言えるようになっていきます。

## 確認テストで出題された問題が入試で的中

**大原** オリジナルテキストで学んだことも良かったと思います。市販の参考書・問題集は、一般的な学力を高める意味はあるでしょうが、正直なところ、私立医学部では出題されないような問題が中心です。同じ医学部でも、国立と私立では出題形式がまったく異なります。国立は記述式主体で、じっくり考える力が求められるのに対して、私立は短時間で大量の問題を解く必要があり、解くスピードが勝負の分かれ目なのです。私立医学部に特化したオリジナルテキストで、速く解く力を高めたことが、合格につながりました。

**吉良** オール記述式の国立医学部なら、1問に30分かけてもいいのです

# 高い合格実績につながる 私立医学部に特化した授業と繰り返し定着を図るシステムが



メデュカパス卒業生  
(昭和大学医学部2年)

大原 三佳さん



メデュカパスの卒業生は、どのような独自の教育システムを活用したことによって、医学部合格を実現したのでしょうか。数学科の吉良敏宏講師と、OGの大原三佳さん（昭和大学医学部2年）に語り合っていました。



数学科講師

**吉良 敏宏氏**

が、私立医学部では、問題を見て、瞬時に最適な解法を選択しなければなりません。メデュカパスでは、夏以降、オリジナルテキストや過去問を用いて、最も効率的な解法のテクニックを教えます。ただし、前期の授業ではまず、標準的、模範的な解法を習得させます。それが身につけていない段階で、テクニックに走っても通用しないからです。きちんとした実力を備えた上で、最適な解法を選択できる力を養っています。

**大原** 迅速に解く方法を教えてもらったおかげで、余裕が生まれ、昭和大学の入試の数学では、5分前に全問解き終えて、見直しの時間を作ることができました。しかも、大問丸々1題、「確認テスト」とほぼ同様の問題が出題され、ラッキーでした。

**吉良** かなり難しく、差がつきやすい問題でしたから、有利だったと思います。手前味噌になりますが、オリジナルテキストは、旧両国予備校時代から蓄積されてきた頻出問題をベースに、毎年、新傾向の問題を加味して改良していますから、入試本番で類似問題が出題されることが少なくありません。

### 面倒見の良さが魅力 寮や食堂も完備

**大原** アットホームな雰囲気でも面倒見が良いことも、メデュカパスの魅力です。私はネガティブな性格で、入試本番が近づいた頃、「まだこんな問題も解けない」と、焦りが高じて、精神的に辛くなり、勉強

に手がつかなくなることも多々ありました。そんなとき、田村校長先生に、泣きながら気持ちを聞いてもらい、慰めていただきました。「あなたなら、きっと受かるわ」と、前向きな言葉をかけてもらい、すっと心が落ち着きました。

**吉良** 生徒のほぼ半数は女子ですが、悩んだときに相談しやすい女性校長の存在は大きなものがあるようです。

**大原** つい根をつめて勉強しがちになりますが、毎日30分間、食堂で仲間と一緒に夕食を摂る時間が決められていたのも、いい気分転換になりました。仲間とちょっとした会話を楽しむことで、ぎすぎすせずに受験勉強を乗り切ることができました。

**吉良** 実は創立当初、寮がなかったこともあって、7時前後に夕食を食べに行つて、そのまま帰宅する生徒が数多く見られました。それでは医

学部合格できるだけの勉強量は確保できません。そこで、朝9時から夜9時まで強制的に勉強してもらうために、寮や食堂を整備したのです。その効果は大きく、合格率が飛躍的にアップしています。

**大原** 私は体力に自信がなかったのですが、校舎から徒歩すぐの距離にある男女別の寮に入りました。それによって、通学時間帯のラッシュで疲れることが避けられ、体調を崩すことなく、1年間皆勤できました。夜9時まで強制的に勉強を課されるのは大変ではなかったかと、よく聞かれますが、逆に安心感が得られました。何よりも、分らないところはすぐに先生に質問でき、その日のうちに疑問が解消できる環境があったかったですね。

**吉良** 最後に、これから医学部をめざす後輩へのアドバイスをお願いします。

**大原** 受験勉強の1年間は長く、挫折しそうなこともあるかもしれませんが、自分とメデュカパスの教育システムを信じて、最後まで頑張り抜いてほしいと思います。たとえ模試の判定が悪くても、粘り強く勉強を続けていけば、必ず良い結果に結実します。

**吉良** 11月の最後の模試で判定が良くななくても、その後の数カ月で大幅に伸びる生徒もたくさんいます。自分とメデュカパス、片方だけではなく、両方を信じることができれば、必ず合格は勝ち取れます。

